



# 北海道コワーキング・パーティー2012 新しい働き方「コワーキング」を 考える

コワーキングスペースは、2010年に日本で初めて誕生してから急速に数が増えつつあり、現在、全国で90件以上あるといわれています。北海道でも、昨年11月に第1号のコワーキングスペースが、そして本年8月までに三つのスペースが相次いで誕生し、コワーキングのムーブメントが盛り上がりつつあります。

その一方で、「コワーキング<sup>\*1</sup>という働き方」は、どのような働き方なのか、どのような可能性があるのかなど、道内ではまだまだ知られていません。

そこで、札幌コワーキング・サポーターズ<sup>\*2</sup>では道内外のコワーキングスペースを運営している方、コワーキングスペースを活用して活躍している方を招き、新しい働き方「コワーキング」について、ゲスト・参加者の皆さんとのトークセッションを通じて、「コワーキング」の可能性について考えるイベント「北海道コワーキング・パーティー2012」を、平成24年9月28日に札幌市で開催しました。

## 第1部 トークセッション

### 新しい働き方「コワーキング」を考える



渡辺 保史 氏  
東海大学国際文化学部  
デザイン文化学科客員教授

**渡辺** 道内では、昨年秋に「Garage labs」がオープンし、今年には「ドリノキ」「小春日和」「Coworking Cafe 36」と半年の間に道内で四つもできました。これは、ここ10～20年の間に世の中で起こっている変化を、働き方という部分で先取りして、目に見える形で動いているという予感がありました。それで今年3月、北海道経済産業局、札幌市、北洋銀行、北海道大学が連携し、「札幌コワーキング・サポーターズ」がスタートしました。

新しい形で人と人がつながり、そこから仕事生まれ、プロジェクトが起こり、新しい活動が起こるといえる実感を持って働くことができるのが、コワーキングの可能性と魅力です。

第1部では、先駆者としてコワーキングスペースを運営している方、実際にコワーキングで起業している

※1 コワーキング (Coworking)

ソーシャルメディアの普及により「企業や組織に所属しない(または組織・企業の枠を超えて)様々な能力や価値観を持つ人たちが集い、積極的にコミュニケーションしながらノウハウやアイデアを共有し、刺激し合いコラボしながら仕事を行う」という新しい働き方の総称。

※2 札幌コワーキング・サポーターズ (SCS)

全国初となる金融・大学・行政機関が連携した「コワーキング」応援組織。2012年3月に経済産業省北海道経済産業局、札幌市、北洋銀行、北海道大学の4機関がコアメンバーとなって結成。現在は、日本政策金融公庫を加え5機関。東海大学の渡辺保史氏がアドバイザーを務める。

方からお話を聞き、トークセッションを行います。

### 日本で最初の coworking スペース「Coworking カフーツ」



伊藤 富雄 氏  
Coworking カフーツ代表

**伊藤** コワーキングという言葉を見つけ、ネット上で検索して、最初に行き当たったのがシアトルの「Office Nomads」でした。ここで初めて、 coworking が世界にあるという情報を得て、リンクをたどっていき、 coworking の wiki<sup>※3</sup>がネット上にあり、世界中の coworker の情報が

集積されていました。それを参考に、2010年5月に神戸で、日本で最初の coworking スペース「Coworking カフーツ」をオープンしました。

coworking の歴史は、2006年にアメリカのサンフランシスコで、ブラッド・ニューバーグというエンジニアがフリーランスで仕事をしていて、1人ではアイデアにも詰まるし、寂しくなるということで、友達に声をかけ、「集まってやろう」と、「Hat Factory」という帽子工場跡を利用して始めたのが走りです。

2010年には5月に神戸のカフーツ、8月東京・世田谷に「Pax Coworking」、12月大阪に「JUSO Coworking」と3カ所でしたが、それが今や日本中に210何カ所あるそうです。世界では今年中に2,150カ所以上になるといわれています。

世界では coworking スペース利用者が違う coworking スペースでも自由に仕事ができる環境を整える「 coworking VISA」というシステムが動いています。日本でも国内の coworking をつなぐ「 coworking VISA ジャパン」に約40カ所が加盟しています。

coworking は、場所を共有するだけの話に聞こえますが、コミュニティです。フリーランス（個人事業者）、スモールカンパニー（小規模法人）の働き手が、コミュニティに参加することで仕事仲間をつくる仕組み、コミュニティ型ワークプレイスです。

coworking という働き方がどうして出てきたか。雇用形態が変容し、就活がしにくい、不況の影響がありフリーランスが増え、ノマド coworking<sup>※4</sup>も増えた。

ソーシャルネットワークの発達がそれを加速させたとも言えます。「お互いに助け合おう」という理念を表す働き方として coworking が出てきたのだと思います。

コミュニティ型のワークプレイスですので、地元にしかり根を張ってお仕事されるフリーランスやスモールカンパニーのような、人的なリソース（資源）が少ないところをカバーできますが、必ずしもフリーランスのためだけのスペースとは思っていません。

coworking スペースは、ただ運営しているだけではなかなか社会に定着しないつらさがある、「 coworking 事業協同組合<sup>※5</sup>」を作ったのですが、それに先んじて、北海道では札幌 coworking サポートズを行政主導で立ち上げたということに感銘を受けました。こういう形で関係者がうまく絡み合うと、「新しい働き方」が社会に普及していくと信じています。

coworking 事業協同組合の主な事業は五つあります。一つは共同受託です。個人でも能力の高い人はたくさんいます。しかし、フリーなために、重要なビジネスの機会を逸するということが多々あります。それを一つにまとめて、各自の役割を分担していこうというものです。二つ目は、教育研修事業です。企業にいと、企業が技術や情報のアップデートをお膳立てしてくれることが多いですが、フリーの場合はそうはいきません。組合がカリキュラムを編成、公開し、受講してもらような仕組みを提供していきます。三つ目は、情報提供・共有システムです。メンバー同士が情報共有できるシステムを組合用に作ろうと思っています。四つ目は、福利厚生です。国民健康保険ではなく、 coworker のための健保をつくりたいと思っています。

東京圏では、 coworker がどんどんできていますが、地方ではやる気のある人はいても、いろいろな条件があってなかなかスタートできない。そこで、全国47都道府県、1,800の市町村、少なくとも50万人都市で、事業協同組合設立のお手伝いをしたい。

今、日本人の働き方が変わろうとしています。働き方が変わることによって、社会はどんどん変わっていきます。昨日よりも今日、今日よりも明日がより良い

※3 wiki (Wikipedia)  
ユーザーが自由に編集することができるインターネット上で利用できる百科事典。

※4 ノマド coworking (nomad working)  
「ノマド」は遊牧民。「オフィスのない会社」「働く場所を自由に選択する会社員」といったワークスタイル。満員電車や残業から開放され、自分の時間を増やす豊かな働き方として注目されている。

※5 coworking 事業協同組合  
 coworking を広く社会に普及させ、 coworking スペースを拠点に活動するフリーランス（個人事業者）およびスモールカンパニー（小規模法人）のビジネスチャンスの拡充と、教育研修機会の創出、並びに福利厚生の上昇、全国の coworker に利する事業を行うことを目的に2012年8月に設立。とし

社会になるように働き方を変えていこうという理想を持って取り組んでいきたいと思います。

### つながりの仕事術～コワーキングを始めよう～



佐谷 恭氏  
PAX Coworking主宰、  
株式会社旅と平和代表取締役

**佐谷** コワーキングは、一緒に仕事をするのでありながら、別にチームを組むわけではなく、別のことをしている人が同じ場所でやる。そこでの雑談がいろいろなものを生むのが、コワーキングのよさです。

「パーティーするように仕事する」と『つながりの仕事術～コワーキングを始めよう～』にも書きましたが、パーティーのような雰囲気、楽しく人とつながる、人とアイデアを交換することを通して、自分の仕事を発展させ、社会の情報をつかんで世界を動かしていくという仕事の仕方をしませんかという意味です。

企業にいたときの経験で、組織が大きくなると、仕事がつまらなくなると不幸にも心の病にかかって会社を休んだりする人が出てくる。一方で、私が行ったアジアの国々では、何で仕事をしないのだろうかという人たちが見せる笑顔に、どうしたらそういうやり方ができるかと漠然と考えたことがありました。

パクチャー料理専門レストラン「パクチャーハウス東京」という「交流する飲食店」をやっている、すべての人が笑っているという状況をつくって、これがオフィスだったらすごく面白いのではと考え実行しようと考えていた時に、一枚の写真に出会いました。友人が2年半前、イギリスのいろいろな場所に行っていて、その一つがロンドンのコワーキングスペースでした。打合せする人もいれば、一人でやっている人もいる、これは今までいたオフィスとは全然違う、こういう場所を作ればいいのではないかと、これは「パーティーするように仕事する」に通じるということで、2010年8月に東京で初めてのコワーキングスペースを作りました。

最初の半年は、イベントのとき以外は人が来ない。「パーティーするように仕事する」前に人がいない。コワーキングが「孤ワーキング」になった（笑い）。

コミュニティーを作ると言いながら、コミュニティーができていないことに気づきました。ジェリービーンズというアメリカのカラフルなお菓子みたいに、いろいろな仕事を持った人が一カ所に集まるイベント「Jelly<sup>※6</sup>」を常設のスペースにしたら楽しいのではないかとコワーキングスペースに発展するわけですが、私の場合は、飲食店というコミュニティーをオフィスに急に展開したので、コミュニティーができていませんでした。それで、逆にコワーキングスペースでJellyというイベントを始めました。

今、Jellyが世界中で行われています。Jellyやコワーキングの認知を広めるイベント「Worldwide Jelly! Week」が毎年1月第3週にあります。日本でもコワーキングスペースが増えましたし、スペースがなくてもJellyができるということを広めて、いつもコワーキングスペースに行かない人でも、月に1回ぐらいそういった体験をし、組織というコミュニティーを超えた関係性をつくって、自分たちの仕事をもっともっとよく、社会や世界に求められているものをより強く提示できるような環境にしたいと思います。

### 「co-meeting」で起業

**吉田** 私たちのWebサービス「co-meeting」では、リアルタイムグループコラボレーション（Web会議）という言い方をしていますが、入力した文字が1文字1文字、相手の画面に飛んでいく、チャットみたいなツールです。細かいメッセージを送るだけのツールは多様化しています



吉田 雄哉氏  
株式会社co-meeting取締役

が、報告と相談を支えるツールは意外とない。それで、自分たちが得意な分野で何をテーマに起業するかといったときに、そこに必要性を見だしツール化していきました。競合製品としてスカイプなどの音声系のサービスがありますが、それとの違いは、文字しか使わないということです。文字はデータ量が小さい。例えば中国の奥地やアジア圏では通信環境がよくないところもありますが、そこでも国内で横にいて話すよう

#### ※6 Jelly

コワーキングスペースで開かれるイベント。語源はお菓子のJelly beans。多種多様な参加者がコーヒーやお茶を飲みながら、ティータイムの延長で1つのテーマに沿った「対話（Dialog）」を進める。

に文字が送れるのが最大の特徴です。

ネットワークと電源があれば、私たちはどこでも仕事ができます。私たちが作ったCROWY<sup>※7</sup>というサービスはユーザー数が今5万人に差しかかる勢いです。普通は5万人を支えるIT機器には数千万円の投資が必要ですが、クラウドを使ったおかげで数万円で済みました。起業するときに何が重要だったかという、コワーキングです。会社員を辞めて起業するときには、前の会社のコネクション、スキルは置いておかなければいけない。そうすると、起業するのはすごく難しく、コワーキングスペースで先輩の方々からいろいろと話が聞けたのは重要でした。

私は、水道橋にあるコワーキングスペース「ネコワーキング」をメインに、渋谷のLightningspotなどを転々として仕事しています。会社メンバーともお互いの場所に関しては全然話をしない。最小限度のチームワークをどう構築するかということで十分仕事はできます。ただし、これは4人のメンバーが同じ価値観を持っていないと難しい。信用しているから行動を聞かないのです。自分の裁量の中で居所の選択をしながらやっているという感じです。

それで、『つながりの仕事術』の共著者の藤木譲さんと私たちが会って出来上がったものがCROWYです。もともとは木村さんの奥さんがデザインしたクロちゃんというカラスのマークがついたアプリでしたが、「もっとインテリジェンスあふれるクールなサービスでないとホワイトカラーの方々使ってくれない」と藤木さんに指摘されて、これになったわけです。コワーキングの中で知り合って、お互いの持ち味をどう出していくのかといったときに、こういう作品ができ上がったということです。今後、いろいろな方が活動していくとき、同じ場所において働くということがベストなわけですが、もっと違う刺激を受けてやるという選択肢もあります。クラウドの時代になったおかげで、これだけのスピード感で、自分たちの腕やコネクションをうまく活用し、サービスを立ち上げ、「半分のユーザーが海外」というサービスを構築できるようになり

ました。

#### 「自分たち事」の領域が広がって

**渡辺** 最近、『ワーク・シフト』という本を読み始めました。著者はリンダ・グラットン、副題が「孤独と貧困から自由になる働き方の未来図〈2025〉」で、2025年に働き方はどのように変化しているかを、SF的なショートストーリーと90年代のかつての働き方を対比、コワーキング、ノマドワークのようなITやソーシャルメディアを活用した新しいシェア型の働き方が浸透していくと、こんな未来が待ち受けているという本です。昨年の秋ぐらいからコワーキングの応援活動をしている中で実感するのは、こういうことなのです。

私は授業で、「自分事・身内事と他人事」の間に、「自分たち事」が広がっている」と言っています。「自分事」をそこに持ち込むといつの間にかみんなと一緒に考え、「自分たち事」になるということが、『ワーク・シフト』に描かれています。コワーキングは、働き方を「自分たち事」にしていく可能性を秘めています。

そこで、実際にコワーキングスペースを運営していて、あるいはコワーキングをしていて、「自分たち事」のようなものがどんなふう生まれ、今一番インパクトを感じているところはどこかをお話してください。

#### 周りを知ることで生まれる相互扶助的な関係

**吉田** サラリーマンのときは自分の会社のプロダクトやサービスをどうするという感覚でしたが、今は周りのことを知ろうとしていることです。例えば、似たようなサービスをやっている人や使ってもらえるユーザーを知っている人たちが周りにいるのが、コワーキングスペースにいると気づくのです。ただ事務所に閉じこもってプロダクト（製品）を作っていたら、こういう感覚や気づきはなかった。今はこうして対面して、やっているサービスを伝えられます。そこが一番、会社を辞めてから刺激を感じたところです。

**渡辺** 自分たちが作っているものの、ユーザーになりうる人の反応をすぐ見ることもできるし、新たな発見とかアイデアも生まれてきやすいということですね。

**吉田** 逆に、「うちはできませんが、通っているスパー

※7 CROWY  
Facebookページやグループ、Twitterのハッシュタグ、youRoomやYammerのようなグループコミュニケーションサービスに対応した、無料で使えるコミュニケーションダッシュボード。

スにできる人がいます」とデリバリーすることもできます。そういう関係性を構築しやすいです。

**渡辺** 相互扶助的な関係が生まれるということですね。

#### 自立分散型、しかも適材適所で

**伊藤** 去年、神戸で開催した「コワーキング・フォーラム関西 2011」での経験が強烈に印象に残っています。ボランティアでコワーキングを社会へ広げていこうという共通の目的を持った人たちが集まりました。思い付いたのは10月、開催したのは12月ですから、準備期間が2カ月なかったのですが、スポンサー担当や会場担当など、担当する仕事を決めて、グループ分けし、任意でグループに参加して自発的に動いてもらいました。オンラインでグループ名を使い情報を共有、グループの中で問題が起これば、パブリックに出し全員で意見を出して決めていくとしていたのですが、大体のことはグループ単位で解決していました。20何人という人たちがそれぞれの思いを共通のベクトルに向けて行動できたということです。

ヒトデとクモの例え話があります。クモは8本の脚を動かすために脳が指令を出していますが、ヒトデには中枢神経はありません。5本の脚が勝手に動いているそうです。右に行きたい脚が動いていると、他の脚が「手を貸してやる」みたいな感じで、その場の空気動いているそうです。コワーキングはそれに似ていると思います。そこら辺の機微が分かる人たちがいればうまくいきます。それが去年のフォーラムの成果でした。それ以来、日本のコワーキングは大丈夫だと思いました。信じています。日本人は優秀です。

**渡辺** 自立分散型で、しかも適材適所で。

**伊藤** 正にそういうことです。



#### いろいろな人の力を借りて実現に近づくのが面白い

**佐谷** コワーキングの面白いところは、これをやりたいと思って発言すると、周りの人はみんな好奇心があって口を出します。また、初めて来た人がいたら、やりたいことをプレゼンさせます。うまく伝わらず不本意に終わってしまうこともありますが、いろいろな人の力を借りて実現に近づくのは面白いと思っています。

信頼関係で言うと、今はフェイスブックが流行っていて、あの人の知り合いだったら大丈夫というの分かるということもあります。

また、昔は海外旅行をしている途中にその国の人が話しかけてきても、良い人か悪い人かを判断するのにすごく時間がかかっていましたが、今だと旅先のコワーキングスペースで初めて出会った人といきなり本題に入れる。そういうところが、コワーキングのすごさかと思っています。

**渡辺** コワーキングでこういうことをやりたいという抱負がありましたら、順次ご発言ください。

#### ビジネスモデルジェネレーションでワークショップを

**吉田** 「ビジネスモデルキャンパス」と言われるツールを使ったビジネスモデルジェネレーション<sup>※8</sup>という非常に有名な発想法があります。それを使って、今のビジネスをどう進めるかというワークショップができそうだと思います。

#### コワーキングを全国に展開！

**伊藤** コワーキングには、お互いに信頼できる環境づくりが非常に重要です。その環境としてコワーキングスペースが必要だと思っています。コワーキング事業協同組合としては、全国に普及・拡大していくためのいろいろな事業を展開していきます。それにより、どこの会社という肩書ではなくて、コワーカーという肩書きを出しても普通に思われる社会にしたいと思っています。

#### コワーキングスペースを世界中につなげる

**佐谷** 世界中のコワーキングをつなげるということです。お金と時間と場所の制約がありますが、今考えているのは、既に旅をしている人たちに、コワーキング

※8 ビジネスモデルジェネレーション  
ビジネスモデルを組み立てるための戦略的思考を視覚化したフレームワーク「ビジネスモデルキャンパス」(ツール)を使った発想法。

するという発想を知ってもらう。コワーキングがどんなに面白いか、旅人がコワーキングと出会うと何が起るかということをお話していきたいと思っています。

**渡辺** 外国に行くと、異質な、自分とは違うものと出会いますが、コワーキングも同じで、一つの場所で全然違う仕事をしている人たちに出会って、新しい仕事が生まれてくる。そこに、コワーキングの本質的な概念があると思います。

## 第2部 パネルディスカッション

### 北海道の「コワーキング」の現状とこれから

これまでに道内で立ち上がった4カ所のコワーキングスペースの運営に携わっている方々から、立ち上げの経緯や施設や運営の概要を聞き、ディスカッションを行いました。ここでは後段のパネルディスカッション部分を紹介します。

#### スペースの運用で最も大切にしていること

**渡辺** 道内でコワーキングスペースの運営をされている4人の方々に共通のお題を出し、答えていただきながらディスカッションします。第1問は「コワーキングスペースを運営している中で最も大切にしていることは？」です。



**赤沼 俊幸 氏**  
Garage labs: (株)24-7

**赤沼** 「志」です。スペースを単なる場所として使いたいという方はお断りしています。どんなことを行いたいとかという話を聞き、それがこのスペースに合うかどうかと、Garage labsの目的「インターネットを利用したビジネスで、北海道に雇用を生み出すグローバル企業の創出」への賛同です。私たちはよい意味で仲間としてやっていくのがいいと考え、その「志」を大事にしています。



**金山 敏憲 氏**  
札幌大通コワーキングスペース ドリノキ

**金山** 「冷蔵庫に気をつけろ」です。ドリノキを作るときに、東京のコワーキングスペースにかかわった人たちから、会員さんに使っていただく冷蔵庫で紛争が始まる。ここは現

実です。必ずそこから人間関係が壊れていくと口を酸っぱくして言われました。趣味し好が違う人が集まっているので、最低限のルールがなければ駄目なのですが、それが象徴的に冷蔵庫に表れる。ささいなことがけっこう問題になるので、気をつけなければいけないという意味です。



**大野 友莉 氏**  
コワーキングスペース小春日和

**大野** 「誰でもOK」です。函館は人口が少ないところなので、逆手に取っています。「コワーキングスペース小春日和」の場所は住宅街なので、いろいろな人たちが訪ねてきたりするオープンな場所になっています。

いろいろな情報が取り込まれ、地域の課題に向き合うことで、新しいビジネスが生まれる可能性をすごく秘めています。いろいろな方々にいろいろな価値観で交流してほしいと思います。



**川村 健治 氏**  
Coworking Cafe 36

**川村** 私は「札幌のためにだけ」です。札幌のためになることだけをまずは一番大事に思っていけばいいと(笑)。

**渡辺** シンプルでいいですね。地域活性化や、地域ならではのコワーキングの在り方もありますね。

#### こんなことをやってみよう

**渡辺** 第2問です。「1年後のコワーキングをイメージしてみると?こんな面白いことが起こっている、こんなビジネスが始まっている…など」、皆さんがやってみようことのイメージです。

**大野** 2015年に向けた「道南ネット」です。新幹線開業までには、地域の情報をきちんと発信できるような形をつくるというのが課題だと思います。道南それぞれの地域の方々と、コワーキングスペースを中心につながっていくと、かなりネットワーク性が豊かになっていくのではないかと思います。

**赤沼** 「仲間がいる」です。「こういうことを試みたい

ので、助けになる能力を持っている方、参考になるような体験をした方はいませんか」という問い掛けに応えられるようなスペースにしたいと思っています。

**渡辺** 川村さんはやっぱり、「札幌」ですね（笑い）。

**川村** 「札幌の面白い人は36（サブロク）に居る」です。地方や本州の方がそれを期待して訪れていただくようになったらいいと思っています。

**金山** 「よろずお悩み相談所」です。さまざまな業種の方が集まっていますので、街の悩みを投げかけてもらって、チームで解決できたらと思います。

あとは、北海道が好きになって札幌に住みたいという人がいても、知人や親せきがいなくてアクセスしづらいと思いますので、ドリノキにアクセスして相談してもらえそうな場所になったら面白いと思います。

#### 協働して取り組みたいこと

**渡辺** 第3問は「道内のコワーキングスペースで共通に『なにか』取り組んでみたいことはありますか？」です。コワーキングスペースやコワーカーの人たちと一緒に取り組みたいことがあるのでしょうか。

**川村** 「東京と対決」です。東京から札幌に帰ってきた人ばかり15人ぐらいで話した中で「札幌の人たちは、けっこう力があるのに、外に出ていないから自分がどれだけすごいかわかっていない」と言うのです。聞いていて、それはもったいない、では対決してみたらいいのではと常に思っていますが、一人では無理なので、みんなで力を合わせればいいのではないかと思います（笑い）。

**大野** 「Jelly同時開催」です。この会場をUstream<sup>※9</sup>で中継していますが、こうしたインターネットを通じた新しい技術で、距離が離れた会場との会話や対決ができるのではないかと思います。

**渡辺** できますよ。大丈夫です、やりましょう。

**金山** 「共通チケット」です。4カ所のどこでも使えるビザ、無料体験チケット。それだったらすぐにできそうだと思います。

**赤沼** 私は「自慢大会」です。「コワーキングはこんなにいい」とみんなで自慢したり、作ったサービスや

新しいビジネスを自慢し合ったり、また、コワーキングスペースを利用しない方にもどんどん自慢して、共感していただける方にサポーターになっていただくような大会をしたいと考えています。

#### 会場からの質問

**Q** 皆さんがコワーキングスペースをさらに発展させようとするときに感じている課題、こうした方がいいというお考えがあればお聞かせください。

**大野** ITはすごく進化が激しくて、自分のところで抱えている従業員だけではカバーできず、かといって人材を増やせないというのが現状です。そういう時に協力できる態勢をどうつくり上げることができるかが課題です。それがきちんとできれば、すごく大きなものにつながっていく可能性を感じています。

**佐谷** いろいろなスペースでコミュニティーづくりをもっと進めてほしい。例えば、コワーキングスペースの三大重要要素は、「あいさつ、ランチ、飲み」です。

コワーキングスペースはそれぞれが違うことをするので、工夫しないと他人のままで過ぎてしまいます。コワーキングスペースは大体、オープンスペースなので、お互いの信頼がないとうまくいかないのです。

\*

**渡辺** 去年の秋から札幌コワーキング・サポーターズに関わり、行政機関や大学、金融機関なのに、こんなスピード感で物事が決まっていくという希少な体験をしました。それがソーシャルメディア時代の物事の進め方であり、コワーキングに対する地域社会や既存の組織の対応の仕方を先取りしていると感じます。

Garage labs（札幌市）

<http://garage-labs.jp/>

札幌大通コワーキングスペース ドリノキ（札幌市）

<http://sapporo-odori.jp/dorinoki/>

コワーキングスペース小春日和（函館市）

<http://8share.jp/>

Coworking Cafe 36（札幌市）

<http://coworkingcafe36.com/>

※9 Ustream

インターネットで動画や音声を配信するサービス。音声付き動画を手軽に生中継配信できる。チャットなどの機能もある。